

# JUNGIDO

『遵義の桜、さらなる開花』

1898 =  = 2005

## 滋賀県立膳所高等学校同窓会報 遵義堂

### CONTENTS

巻頭エッセー	1
待ち遠しい同窓会	1
平成17年度総会のお知らせ	1
校舎改築着々と進行中	2
同窓生投稿欄	3
「大津市特別賞受賞」の榮譽に浴して ラグビークラブ「アンツ」を発足します	3
村瀬紀夫先生を偲んで	3
周年記念同窓会報告	4・5
周年記念同窓会予告	6
会計中間報告・総会提出議案	6
同窓会事業報告・石庫文庫	7
会費納入のお願ひ	7
膳所高NEWS	8

発行人/宇野 勝  
発行所/滋賀県立膳所高等学校同窓会  
大津市膳所2-11-1  
TEL077-524-4295・FAX077-524-1732  
発行日/平成17年4月15日  
編集人/広報部会・山田 勲  
印刷/有限会社服部印刷所

VOL.22

### 巻頭 エッセー

#### 膳所・岡田スクール 高校理科教師の

#### 一つのイメージ

昭和49年卒 東京大学教授 磯崎 行雄

昨夏、ちよつとユニークな膳所出身者の集まりをもった。いずれも地球あるいは琵琶湖に関係した職を持つ昭和20年代〜40年代の卒業生である。実は膳所から大学の地学分野に進学した者の総数は20有余名に及び、うち10名が大学教員である。地学なんて昔も今も大学での専攻分野として全然メジャーではない。にも関わらず、膳所からアカデミック志向の地学系人材輩出率が高いことは大学・学会の中でも特異である。これには明確な原因がある。卒業生が集中したこの時期は、我が国が恩師岡田節夫先生の在任期間に他ならない。

先生の授業は独特で面白かった。とくに直感的によく理解できる比喩にうまさがあつた。生徒達はみな笑いながらも「ああ、なるほど。」と納得した。合間に発せられるちよつとしたコメントがまた極めて印象的だった。卒業生たちは単に地学の知識を学んだとは思っていない。好奇心のもち方、勉強の意味、科学に対する姿勢など、むしろ地学を離れた一般的な教養を教えられたという印象が強い。「君らは受験英語の勉強が大事というが、国語のできないものに外国語が身につくはずがない。まずは沢山の本、それも小説より論説調の本を読め。」などという言葉は長く記憶に残っている。ゆえに地学以外の分野に進んだ卒業生の多くも強い影響を受けたにちがいない。卒業して30〜45年後、学年の異なる弟子達が一堂

に集まって、丁度80歳になられた先生を囲んだ。先生曰く「カネの儲からん地学などという怪しい世界に多くの卒業生を引っ張り込んでしまった。本当に罪深いことをした。申し訳ない。」岡田節夫はまだまだ健在であった。

現役の先生方に何うと、大学受験一辺倒の教育システムの中で、時間と規則に縛られ、思うような授業ができないそう。また我が国では目先の利益に誘導されたバイオ、ITそしてナノテク重視の風潮に押されて、バランスのよい高校理科教育全体が逆風にさらされている。岡田先生の実践例から判断すると、そもそも高校理科教育の本質とは教員個人個人の教育の高さとボランティア的なサービスピ精神につきさるだろう。かつて膳所の生徒たちは、岡田先生から理科一般の知識とともに勉強・研究する人生のあり方を習い、それが人生の財産として残った。その中で地球という実に個性的な星を相手にする面白さを垣間見せてもらったというのが実態であった。少なくとも暗記科目としての地学はそこにはなかった。温故知新のヒントはこんな所にあるのかもしれない。湖側校舎1階にあつた地学教室を覚えておいでだろうか？私達は SUNAMI が世界に知られた日本語であることをそこで学んだ。湖国に伝統あり。間もなく新校舎の建設竣工ときくが、元氣あふれる後進の登場・活躍に期待したい。

### 新入会員

#### 待ち遠しい同窓会

平成17年3月卒業

瀧尻 茉美



膳所高校での三年間は、班活動や生徒会活動を中心に本当に盛りだくさんで充実したものでした。生徒会長として制服についての校則改正活動

にも取り組みました。以前から女子の要望としてあつたことでしたが、活動の中で校則のあり方などを深く考え、あらためて膳所高校の校風について学校全体で見直すことができました。たくさんの膳所高生徒や先生方に力になっていただき改正されたときは、初めての大きな仕事の達成に喜びを感じました。また改正するだけで終わりでなく、これから

の膳所高校でも、色々な問題を前向きに検討していくけるように、校風委員会を設置しました。活動が後の世代まで続き、生徒にとっても先生方にとっても更にすばらしい、そして膳所高の先輩方にも恥じない校風を生徒たちの手でつくっていききたいと思ひました。

今、私達は卒業です。クラスの友達と毎日顔をあわせてしゃべったりふざけたりできなくなるのはとても寂しいことですが、会えないからこそ久しぶりに会える同窓会をみんなで楽しみにしています。三十代の同窓会ではみんな仕事にうちこんでいると思います。みんなの夢が実現しますように……七十代のクラスメートは想像できません。見分けがつくかどうか不安です。ノーベル賞をとっている友達には必ずいます。そしてそのころになつても、膳所高での思い出は心にあり続け、あのころはこうだったと高校時代を懐かしむだろうと思ひます。

### 本年の総会は5月14日(出)

#### 平成17年度 総会のお知らせ

滋賀県立膳所高等学校同窓会 平成17年度定例総会を左記の通り開催いたします。多数の皆様方のご出席をお願い申し上げます。

#### 平成17年度 定例総会

日 時 平成17年5月14日(出) 午前10時開会  
(午前9時30分 受付開始)

場 所 大津プリンスホテル

大津市におの浜4-1-17

TEL 077-521-1111

#### 議 事

- ・平成16年度会務報告
- ・平成16年度会計報告並びに会計監査報告
- ・役員選出(会長・副会長・会計・監事)
- ・平成17年度事業計画並びに予算案
- ・その他

#### 記念講演 「水と生きる」

講師 宗宮 功氏  
(昭和32年膳所高第5回卒)  
京都大学名誉教授、龍谷大学理工学部環境ソリユーション工学科教授

#### 懇親会

(懇親会にご出席の方は、当日受付にて) 会費6千円を頂きます。

出席のお返事は同封の葉書でお願いします。欠席の方及び異動のない方はご返信不要です。

#### 講師プロフィール



1958年膳所高校卒業/1962年京都大学工学部衛生工学科卒業/1967年同大学院博士課程修了/京都大学工学部助手・助教授/1996年京都大学大学院工学研究科水環境工学教授/2002年同定年退官・京都大学名誉教授、龍谷大学理工学部教授/2003年同環境審議会会長、日本オゾン協会会長など数多くの公職も務められている。

#### 講演の主旨

琵琶湖との係わり。公害の時代から環境の時代へ。都市水辺の再開発と自然の豊かさの再発見。ヒートアイランド現象が顕在化し、中小河川は適路化して便利にはなるが生活に金がかかる時代。

水は人間だけのものではなく、人の生存に欠かせない環境生態系の保全に必須のもの。

# 校舎改築着々と進行中



## 校舎全面改築に寄せて

膳所高等学校同窓会長  
宇野 勝



遵義の桜も満開の時期になりました。毎年巣立っていった卒業生を見送ってきた樹齢五十年以上の桜の大木も有ります。同窓生の皆様はご健勝でそれぞれのお立場でご活躍のことと存じます。

百周年記念事業には事業の主旨をご理解賜り目標に向かってご協力を頂き達成出来ました。厚く御礼申し上げます。



第二グラウンドの整備、トレーニングルームの建設と昨日のことの様に思われます。  
平成十四年八月の埋蔵文化財発掘調査中にグラウンド下から「禾津頼宮」とみられる奈良時代の建物跡が出土し、一部設計変更を余儀なくされ着工が一年半遅れておりましたが、ようやく平成十六年九月に起工式が行われました。平成十八年三月校舎は竣工の予定です。  
最新の設備で教育環境も整うことになりました。念願の校舎改築が着工し工事も順調に進んでいるようです。喜ばしい限りです。滋賀県教育委員会の関係各位に厚く御礼申し上げます。

## 授業を進めながらの工事進行

校長 大崎悦男



本校の現校舎は昭和三十五年に建て替えられたもので、狭小で老朽化が著しいことから、平成十二年度に県教委において膳所高校改築計画が策定され、平成十六年度中の完成を目指して全面改築されることになりました。

しかし、改築工事に先立って行われた文化財発掘調査で、聖武天皇が天平十二年(七四〇年)の行幸の際に設けた「禾津頼宮」と考えられる建物跡や奈良時代後半の軍事施設の一部と考えられる遺構が発見されたため、設計変更を行うなど着工が大幅に遅れ、平成十六年八月にようやく管理棟と教室棟の工事請負契約が締結されました。  
その後、近隣住民の方々のご理解もあって工事は順調に進捗していますが、現場が教室のすぐ近くであることから、騒音や振動が授業に悪影響を与えることのないように、施工業者との連携を密にしながらか種々対策を講じているところであります。

いずれに致しましても、全体計画では校地内すべてが工事区域となっており、全工事が完了する平成十八年度末までは学校生活に不便を来たすことがあるかと思いますが、生徒達には「ピンチをチャンス」と叱咤激励しています。同窓生の皆様の温かいご支援ご協力を切にお願い申し上げます。



なお、本年秋には格技場の解体にはじまり、十八年には皆様方が学ばれた現校舎等解体工事が始まります。同窓生の皆様で、ぜひ保存すべき記念物(植樹・カブセル等)がありましたら、本校または同窓会事務局にご一報いただければ幸いです。よろしくお願いいたします。



### ○ 着工分

年度	平成16年度			平成17年度												平成18年度											
	8	9	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1		
管理棟新築工事	—————																										
備品搬入	—————																										
引越移転作業	—————																										
教室棟新築工事	—————																										
格技場解体	—————																										
附属棟工事	————— 自転車置場、外部倉庫等																										
備品搬入	—————																										
引越移転作業	—————																										

### 工事行程表

#### ○ 予定分

年度	平成16年度			平成17年度												平成18年度											
	8	9	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1		
体育施設改築工事	—————																										
セミナーハウス建築工事	—————																										
グラウンド(校地)整備工事	—————																										
旧校舎解体工事	—————																										
体育館改修工事	—————																										

山は泣いている

北哲也

先日、ツツドリの一音が近くから低く響いてきて、あっ、これも春の気配には違いない、と雪崩りの手を休めたことだった。明るく日上空何千Mかに氷点下3C以下の寒気団が...と予報が繰返される。そして、黄砂のせいか薄汚れた雪原の上を一尺ばかりの真新しい春雪ががぶさつていった。

安曇川の源流域の一つで、村の中でも最奥部の朽木村針畑地域は、川下に比較してスギなど人工林の面積は小さい。在所まわりの元田んぼのスギ林が目立つ以外は広葉樹林が残っている方で春、秋はたしかに気分が良い。葉の落ちた雑木の雪山は、なお気持ちいい。ところがこの雑木山に異変が起きている。

遠望している限り、夏の土用ともなれば緑いっぱい自然ゆたかな在所ということになる。が一步林の中を歩いて見るとスカッと眺望が利いた高木層だけの単調な林の姿に驚く。林床の下草、灌木は特定の樹種を除いて殆んど見当らない。アセビやヤマアジサイなどのアオが目立つばかりの異様さだ。鹿である。友人の若狭の猟師によれば日本海側では若狭から越前の方へと東進しているらしい。もう一つの異変が「ナラ枯れ」である。カシナガキクイムシが幹に穿孔、養分ルートを通りやがてナラは枯れていく。クワリと並んで大昔から山の百姓になじみ深いコナラやミズナラ。用材、薪炭、キノコ原木として今も貴重な樹。ドングリが減る。クマ、イノシシ、シカは更に里へ押し寄せ、山菜類が消えナラが倒れ、山のためのしみはシヨボクなる。私の

しごとの一つ、木酢液の蒸留精製なども視界不良ノ「自然再生」。「森林再生」は思わぬところから現実味を帯びてきた、ということかなあ。いよいよ「山の火入れ」で更新せんと山は生き返ってくれんのかなあ。



▲ ナラ山の伐採風景

「天津市特別賞受賞」の榮譽に浴して

小牧久時

2004年5月の英国文化功勞特別章受賞に引き続き、12月7日には初の「天津市特別賞」受賞の榮譽に浴しましたことは、身に余る無上の光榮であり、感謝と感動の極みであります。

今回の受賞は「湖国21世紀ビジョン」の作製、さらにはライナス・カール・ボーリング博士（ノーベル化学賞・ノーベル平和賞を受賞）との共同提案「絶対平和への四階段」構想への世界的評価の高まりに依るものと存じますが、その責務をひしひしと痛感する次第です。微力、その上、高齢ではあります。世界各國の軍備全廃、地球上のあらゆる動物の共存共栄（特に中枢神経の発達している動物の激痛、激苦を無くする）を目指し、全力傾注することをお誓い申しあげます。

なお、この受賞を契機に「地球環境保全修復」のための新NPO法人を立ち上げることとなりました。なにとぞ倍旧のご指導ご鞭撻のほど心よりお願い申し上げます。

ラグビークラブ

「アンツ」を発足します

村上元三

子どもが巻き込まれる事件が多発している今日、子どもが安心して遊べる場所にと、ラグビー部OB有志を中心に「アンツ」を発足させます。

大学時代英国遠征したとき、地域の人々が集まってラグビーについて熱心に語り合っていた姿を思い起こし、「勝利至上主義を排し、子どもが戻ってきたくなるような芝のグラウンドを持つクラブ」を夢見て頑張っていきたいと思えます。同窓生の皆さんのご指導ご鞭撻をよろしくお願ひします。

村瀬紀夫先生を偲んで

村瀬先生のホームドクターでもあり、私の同級生でもある藤野君（昭和53年卒）から村瀬先生ご逝去の突然のメールを受け取ったのは去年の夏である。その1年前に我々の卒業25周年記念パーティーがあり、先生は年月の流れを感じさせないお元氣な姿で出席して下さっていた。懐かしいお姿に我々はすぐにタイムスリップすることができたものだ。村瀬紀夫先生は昭和3年、大垣市のお生まれで、

教育者であったお父様の都合で天津に移り、膳所中学、三高、京大文学部へと進学され、教鞭をとられた。天津高、彦根東高、膳所高を経て野洲高校長でご勇退されるまでの教職生活の大半に当たるとも20年間を母校膳所高の教育に費やされ、その厳しい中にもアカデミックな講義に感銘を受けた生徒も少なくないだろう。いつだったか不真面目だった私のクラスで「僕は君達に教えるのに少なくとも2時間は予習をしている。君達が何の予習も準備もしないで授業を受けるのは失礼だ。」と言われたことがあった。何もしていない張本人ではあったが、心の中でこの言葉に大きくうなづいた。先生にはどこか威厳があった。

粉雪の舞う2月27日、天津市錦織の先生のお宅に奥様を訪ねた。奥様によれば、先生は家で学校の話を一切なさらず、定期に出勤、定期に帰宅。電車に一本乗り遅れたものなら必ず家に電話をされたようだ。「私、待つていないのに...」奥様（笑）家に帰ると書斎で授業の準備や書き物をされ、静かに過ごされた。お酒は全く飲まれなかつたがヘビースモーカーで、奥様の忠告も一生無視し「喫煙と病氣は無関係」との信念のもと、煙草を離れることはなかつた。かなりの神経質で、一番風呂にしからず、20日に一度は散髪に行き「それも一番高い床屋へ行くのよ」奥様（笑）。高価な化粧品を使い、身の回りの手入れにはこだわられた。しかるに衣服には無頓着であられたのか、夏は「暑いから説いた」と言つてシャツ（肌着）姿で帰宅されることもあり、短パンにアロハシャツで街をうろつかれていた姿もかなりの同窓生が目撃している。「どここの魚釣りのおっちゃんか？」と思えば村瀬先生だつことが私にもあった。

ミニチュアコレクターのごとく、お宅には先生が集められたという溢れんばかりのかわいい品々が綺麗に整頓され並べられていた。写真アルバムも年代毎に見事に整理され60余冊に及んでいる。先生が如何に、きちんとした授業をして下さっていたかと今更ながら納得した。

「私は前しか見ず、過去を全て棄てて生きるのですが、彼は後ろを見、過去を大切にそれを引き継いで生きるのよ。」と奥様は対照的な夫婦であったことを明かされる。しかし、お互いの誕生日にはかかさずプレゼントの交換をし、奥様が川柳や短歌を始められてからは、聞けば答える「辞書」として先生は手助けをされ、3年前に奥様の設計で建て替えられたお洒落な新居を先生はこよなく愛し、先生のご両親の31年に及ぶ看病を苦勞の影なく奥様はこなされて来たこと等々、お二人が如何に素敵なご夫婦であられたのかは一目瞭然である。肺癌発覚後1ヵ月も経たぬ、平成16年8月22日、村瀬先生は最愛の奥様に見送られ静かに息を引取られた。

鞭をとられていた先生に、ご逝去の翌日、生前の業績を讃え、政府より瑞宝小綬章（従五位）が贈られている。

「父に偉大なという形容詞は似合わない。偉大な学者と言うよりは庶民の学者といった方がふさわしい。いつだったか、こんなことを言っていた。「四字熟語問題で肉食に焼肉定食と入れた奴がおった。俺は〇をつけた、焼肉定食は立派な四字熟語や。」これは村瀬先生ご葬儀の時のご子息章夫様のご挨拶の一節です。心よりご冥福をお祈りいたします。（広報部員 岡澤則子 記）

村瀬紀夫先生のこと

村瀬先生には、高校一年と三年の時に担任をしていただきました。先生には現代国語を教えて頂いたのですが、個性という形容詞が服を着て歩いておられるかのようでした。休み時間が終わり、村瀬先生の靴音が廊下に響いてくると生徒たちは「先生が来た。」と慌てて教室へ駆け込み、声を潜めて先生を待ちます。すると、教室の前の扉を思いっきりがーんと蹴飛ばして先生が入ってきます。持ち物はチョークケースと教科書だけと極めてシンプル。「じゃあ、行かせ。」のかけ声と共に授業は始まります。先生の授業は緊張感があつて、馬鹿にする者など誰ひとりいません。そういえば四年上の私の兄も先生の薫陶を受けており、「おい膳所高へ来たなら村瀬という恐ろしい先生がいるから気を付けろ。」と常々言つておりました。何に気を付けるのかよくわからなかつたのですが、膳所高にはそういう恐ろしい先生や個性的な先生がいろいろいるのだということは突然と感しております。ある時、その村瀬先生が授業中に「カラカラッ」という大音響と共に突然教室から姿を消されたことがあります。態度の悪い生徒だったかたがかりませんで下を向いていた時だったので、一瞬何が起きたのかわかりませんでした。教室にさわめきが起こりましたが「いやあ、まいった、まいった」といつて頭をかきながら先生はすぐに姿を現されました。授業にあまり熱が入り、教室から足を踏み外して床に転落されたのでした。

村瀬先生の授業は格調高く、心に残る国語の授業とは正に「このことでした。高校三年生の時に教えて頂いた森嶋外の『製紙』の一説を朗々と音読される時の名調子、「ウンデルン、ウンデルン...」は今でも私の耳に鮮明に残っています。また、先生は大人の人情家でもありました。大学にまぐれて合格した私に対し、自分のことのように喜んでくださいました。後年、共通一がはまってから、「大学受験に浪浪がなくなつたよ」と嘆いておられました。

昭和48年卒 高田満彦

計報

村西康彦先生が平成17年3月15日ご逝去され、3月17日京都のセラシテイホール山科で葬儀ならびに告別式が執り行われ、多数の膳所高関係者が参列させていただきました。村西先生は33年間の教員生活の中で、実に29年間膳所高校で教鞭をとられ、この間園芸班の指導にもあたっていたいただきました。また、創立百周年実行委員会では記念行事式典部長として活躍いただき、11月7日の記念式典では、在校生全員による「歓喜の歌」の大合唱が真新しい「びわ湖ホール」に響きわたったことは記憶に新しいところです。茲に村西先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

# 周年記念同窓会

## 25周年記念同窓会

(膳所高26回・昭和53年卒業)

2004年5月4日、琵琶湖ホテルにて昭和54年卒業生の25周年記念同窓会を開催いたしました。午後1時からの同窓会に先立ち、午前10時から母校の教壇に立つ同級生門坂君と神田君の演出による「膳所高校見学ミステリーツアー」が企画され、約50名の参加者が図書室下の蔵書庫や天体ドームの中など、在校中にも入ったことのない場所を含む校内探検をさせていただきました。新校舎ができれば取り壊されるということ、懐かしの校舎巡りも感慨ひとしおでありました。

同窓会には、恩師の小柳、西池、南池、山口、三好、羽野、岩越の各先生を含め総勢180名が参集し、昔話や近況報告に花が咲きました。乾杯の前に、来賓の先生方お一人ずつからお言葉を頂戴したところ、食事開始までに1時間を要したことも思わぬご愛敬でした。進行役は「スーパースター」で活躍中の札幌テレビ森中君で、賑やかな3時間の宴はあっという間に終わってしまいました。お土産は「どっちの料理ショー」等でおなじみの辻調教授堀田さん手作りのクッキーが配られ、最後にピアノニストとして活躍の堤さんの伴奏で校歌を歌ってお開きとなりました。

ところが、隣接する会場に設けた二次会には予想をはるかに上回る150人がなだれ込み、楽しい再会の時間はさらに3時間続きました。ここでは、25年前のあの甲子園の感動をもう一度ということ、スクリーンで桐生高校との対戦ビデオを上映しながら、エース藤本君やセカンド喜多君、初ヒットを放った中村君など野球班の面々が当時の心境を解説してくれ、大変な盛り上がりを見せました。



四半世紀の時を経て、同級生との再会は、参加した者の心に様々な

楽しい思い出と、切なくほろ苦い感情を呼び覚ます機会でありました。そして、同級生が皆それぞれ分野で活躍していることを知り、またその姿を恩師の先生方に喜んでいただけたことは、この高校の卒業生で良かったという思いをあらためて実感させられるものでした。

(大田 伊久雄)

## 30周年記念同窓会

(膳所高22回・昭和49年卒業)

平成16年8月14日(土)、膳所高22回卒業生の30周年記念同窓会を琵琶湖ホテルを会場に開催しました。

10年前に卒業後はじめての同窓会を「20周年記念」として開催しましたが、参加者の多くから「5年に一度くらいはみんな顔をあわせよう」という声があり、それ以来、5年ごとに開催することになり、今回が3回目の開催になります。みんな五十路間近、ましてお盆の開催という、公私とも忙しい時期にもかかわらず、9名の恩師の先生方をはじめ同窓生123名のあわせて132名が参加し、盛大に催すことができました。



森田敏彦くん、植村(岡本)麻利子さんの高校以来の迷(？)コンビによる司会により宴はスタート。今回の実行委員長、宇野哲夫くんのあいさつに続き、祝辞は松山義夫先生。先生のお話は昔ながらの名調子で、あいさつならぬ、授業か講義といった様子。続いて乾杯のご発声をお願いした大野富雄先生も、60歳を過ぎておられるとは思えない若々しさ。また、南池宜樹先生にいたっては「昨日も別の周年同窓会があったんだよ」と連日のご出席。歓談が始まると、たちまち先生方のまわりには同窓生の輪ができ、高校時代の話に花が咲いていました。また、クラスメイトやクラブの懐かしい面々により旧交を温める輪が会場のあちこちででき、さながら高校時代にタイムスリップしたようでした。

宴の途中からは、お料理を食べるのも忘れて、クラスやクラブ、はたまた通学沿線ごとの写真撮影会。撮影をお願いした立岡先輩、ありがとうございます。また、司会の植村(岡本)さんの発案で、卒業アルバムの上映会。会場の大スクリーンに映写したり、各テーブルにもクラスごとの集合写真を回覧をしました。卒業して30年たつと、アルバムがどこかへいってしまっただ人もいて、写真を見て高校時代の出来事を思い出して、みんな笑いあったりして、とても楽しいひとときを過ごすことができました。

終わりに、恒例の次回35周年の幹事を決める各クラス対抗ジャンケン大会。今回はなんと大野先生が5組の代表選手に。先生が負けたらどうなるの、と思いましたが、最後には無事勝ち抜けされ、安心。結果、10組の杉本幸弘くんが実行委員長、2組の神山等くんが事務局長に決まりましたが、ちなみに新事務局長の神山くんは、「次は2000人集めるぞ？」とのこと。今回欠席の方も35周年には是非ご参加を。

一次会に続く二次会では3組石中孝一くんの司会進行で、カラオケあり、トークありの大盛況。あつという間に5時間が過ぎ、次回の再会を約して散会しました。最後にになりましたが、今回の準備には、たくさんの方に実行委員として協力していただきました。ほんとうにありがとうございます。実行委員長とともにお礼申し上げます。(國松 完二)

## 40周年記念同窓会

(膳所高12回・昭和39年卒業)

8月13日(金)琵琶湖ホテルにおいて恩師7名、大崎現職校長(昭和40年卒)を含め総勢142名の出席のもとに盛大に開催。35周年を飛ばしてしまつたので実に10年振りの開催となった。盆休みとあつて所用が重なつた方も多く、何かと論議をかもした日程ではあつたが、河原林実行委員長の「若くして亡くなられた同窓の方々も、お盆ということでの会に参加していただいていることと思います。」の一言で全員が納得。同窓生の柴原綾羽高校校長の発声で乾杯が終わるや否や、青春時代にタイムスリップ。

「お前、全然変わってないな。ところで俺、誰か解かる?」「いや全く解らない。」「君にラブレター出したの覚えてくれている。」「そんなこと、あつたっけ。」「40年という時の流れを感じさせる話が各テーブルで賑やかに繰り広げ



られる。飲み放題のアルコールのメーカーもどんどん上がり、河原林実行委員長がサクサクを携えて、ミュージシャンスタイルで再登場すると、次から次へと壇上に集い、橋本先輩(昭和36年卒)のピアノ伴奏のもと「高校3年生」をはじめ舟木一夫メドレーなど青春賛歌の大合唱。中学校、通学区などと思ひ思いの号令のもと壇上での入り乱れての記念撮影。学年同窓会ならではの楽しみが増え、あつという間に予定時刻をオーバー。「10年は余りにも長すぎる、せめて5年、いや毎年でも同窓会を開催してほしい」との多くの声を受けて、不肖服部が自分の間事務局を引き継ぐこと、卒業以来栗津義宏君が毎年開いてくれてきた年末恒例の「ちよつと飲む会」をできるだけ拡大していくことなどが決まり、近々の再会を期してお開きとなった。念のため二次会用にとキープしておいた隣のカラオケルーム大ホール二室もすし詰め状況の大盛況。さらには浜大津界限へと……。真夏の夜の夢は覚めやらず……。

(服部 章)

## 50周年記念同窓会

(東2回・昭和29年卒業)

平成16年10月23日(土)、琵琶湖ホテル瑞瑠の間で、昭和29年大津東第2回卒業生、172名が、松山先生、石井先生、南先生、岡田先生、広井(旧姓佐藤)先生らご壮健であられる5人の恩師をお迎えし、卒業50周年記念同窓会を開催した。先ず記念写真の撮影、開会の辞に始まり、校歌斉唱、物故者86名へ黙禱、世話人代表挨拶と続き、恩師代表松山先生のお話を真剣な顔で聞き入った。古稀を迎える教える子が大きくなることを喜んで下さり今後もし生き生きと過ごさう話された。

石井先生の乾杯ご発声につづき和気あいあいの内に会が進み懐かしい思い出話や大きく写し出されたアルバムを見つめ、当時の愛称を呼び合い、青春時代そのままの談笑が飛びかつた。何年、何十年の出会いを喜び合い、遺囑歌や琵琶湖周航の歌を合唱しお開きとなった。名残りつきない会の後、同じ階のプラウソンの間で、二次会を開き、思う存分歓談し歌を歌ったり、尺八を聞いたり、話し声や笑い声の溢れる中、またの再会を約束し散会した。会員の近況、人生雑感や住所録を載せた記念誌を作り出席者や希望者に配布することができ、思い出多いたのしい同窓会となった。



(上野 遊子)

# 55周年記念真珠会

(昭和24年卒業・旧大津)

第15回真珠会は卒業55周年記念として、6月9日に宇治「花やしき浮舟園」で松山先生はじめ11名の参加のもと開催。

平等院は、平成6年世界文化遺産に登録された。国宝の鳳凰堂、鳳翔館の数々の宝物類を見学し、広がる、池泉回遊式庭園の美しさにも、心が落ち着いた。



宇治川の清流に沿って建てられた会場の「花やしき浮舟園」に着き、記念撮影の後、緑豊かな自然が眺められる静かな喜撰の間で、松山先生の乾杯のご発声で開宴となった。宇治は茶式部の源氏物語宇治十帖の舞台として有名で、その時代を思い浮かべながら、先生の熱意あふれる物語に聴入り、生徒に戻った懐かしい時間でした。

美味しい懐石料理を頂きながら、級友と近況を語り合い楽しく過ごした。数寄屋造りの対鳳庵でのお茶席も、宇治ならではの優雅なひと時で心が和んだ。

將軍家御用御茶師の伝統と歴史を持つ・創業五百年と云う老舗の三星園に立寄り、興味深い資料の展示に感銘した。好天に恵まれ景色を楽しみながら語り、55周年にふさわしい会でした。(佛性 隆子)

# 四六会例会

(膳中46回・昭和23年卒業) (旧膳所高・昭和24年卒業)

平成16年11月11日、眼下に琵琶湖の景観を望む大津シャンピアホテルに、旧友47名が顔を揃え、平成16年度の例会を実施しました。

延暦寺長壽・大角光徹師による物故者追悼回向で始まった総会は、思いのほか議事が順調に運び、予定した時刻を早めての懇親会となりました。久しぶりの出合いとあって、みんなの話題は尽きることなく、終始和やかに歓談の一時を過ごしました。最後に懐かしい膳中校歌を斉唱、再開を約して楽しい宴を終えました。

今回は膳所地区が世話役を担当しましたが、次回は大津東部地区の担当で、平成18年に「嘉寿」を記念する集いを開催することとなりました。今のところ実施月日等具体的な内容は未定ですが、その節には、同期諸兄に挙がって参加していただき、節目となる同窓会を大いに盛り上げてほしいと願っています。



(世話人一同)

# 65周年記念同窓会

(膳中37回・昭和14年卒業)

平成十六年度膳中三七会に因む卒業六十五周年を記念し物故者の追悼法要を営む。

今年是我々が憧れの膳所中学に合格桜花爛漫の頃初めて着る金ボタンの詰襟の制服に身を包み、希望に燃えて校門をくぐりてより七十年、五年の学業を終え卒業してから六十五周年と云う記念すべき年に当り、今はなき多くの級友や青春時代懐しくも過すもって我々を導いてもらった故き先生方の冥福を祈り、守山市の木辺派照曜山西進寺に於て高田信昭住職を導師として法要を行う。今日生存する級友四十数名の内、今日集いしは二十四名。佛前に掲げられた故き友白名の名前に夫々憶いを胸に香華を捧げ供養の紅白饅頭と云う懐かしい供物を手に守山なぎさ公園に在るホテルラフォーレ琵琶湖に場所を移して宴席を設け一年振りの再会を喜び時計を七十年前に巻き戻し懐旧談に時の経つのを忘れ語り合う。我々は八十五歳迄はこのクラス会を続けようとして決めていたが膳所高校の新校舎が完成する平成十九年迄続けようとの気運すら醸成され最後は「校歌・春駒湯の琵琶湖」を声高らかに斉唱。再会を期し守山駅にて解散。最後になったが膳所高校同窓会より祝金を頂戴しこの紙上を借りて厚く謝意を表します。

尚、本日の物故者の慰霊法要に於いてその靈前に捧げた追憶の言葉の一端と当日の締めくくりに贈った拙い一句を左記します。



追悼の言葉

謹みて膳中三七会物故者及亡き恩師の靈前に捧ぐ時の流れは誠に速く正に光陰矢の如く八十有余年の歲月は長いようでもあり同時に一瞬夢の如く過ぎ去って了った顧みれば……(中略)世は正に戦時へとその流れは大きく渦を巻き昭和十二年の日支事変を契期とし当時の東條内閣は大東亜共栄圏確立の旗の下に欧米列強を向うにまわし昭和十六年十二月には遂に大國アメリカに宣戦を布告と同時にハワイを急襲戦火は中国大陸のみならず太平洋東南アジア全域へと拡大その頃青年期にあつた我々は召されて「海行かば水漬く屍山行かば草生す」大國の刃にこそ死なめかえり見せし「古歌にある如く大陸に太平洋にそして大空に散っていった多くの同窓は今日の日本をどのように見つめているであろうか、思いは千々に乱れて語る言葉を知らない人間の定めとは云え若くして又年老いて身罷った多くの友や我が青春を厳しく且温情をもって導いてもらった恩師の御霊よ安らかに眠り給へと今こゝに在る同級生一同心をこめて祈りを捧げます

散り桜 亡き友悼むや 西蓮寺 (清水仙太郎)

# 12周年記念同窓会

(膳所高40回・平成4年卒業)

平成17年1月2日(旧)京都ロイヤルホテル地下1階にて「平成4年卒業第2回同窓会」が執り行われました。当日は年末の大雪から一変し正月らしい晴天の中、約100名の同窓生とお二方の先生(奥村先生、嶋野先生)が集まりました。4年前の180名からは出産や結婚等の理由もあり、少し減りましたが、4年間の成長?か30代突入の成長?か前回に増して盛り上がりました。会場ではゲームや近況報告などで楽しめました。話がつきることなく二次会にはなんと、70名以上がそのまま別の店へ移動し、カラオケ等で楽しい時間を過ごしました。

今回初めての参加者の方からは「当初は参加しようか迷ったが、来てみて本当に楽しくて、元気をもらえた」という言葉をいただきました。又、4年後(オリンピックの翌年)にノを合言葉に、次回はV字回復で皆様が楽しく集まれるよう準備しておきます。参加者の皆様お疲れさまでした (村上 元三)



# 46周年記念同窓会

(膳所高6回・昭和33年卒業)

平成16年11月14日、膳所高校第6回卒業生の46周年同窓会を琵琶湖ホテルの「瑠璃の間」で開催いたしました。恩師5名を含んで155名が出席しました。

12時に集合して琵琶湖を背景に記念撮影をしたあと会場へ、校歌斉唱、物故者29名に黙禱、恩師代表の松山義夫先生のご挨拶、坂口松太郎会長の挨拶が続き、岡田節夫先生のご発声で乾杯をして賑やかに開宴しました。

3年半ぶりの同窓会だったのであちこちで歓談に花が咲きました。会場の大きなスクリーンに高校時代の昭和31年から33年頃を思い出させる写真を解説とピアノ演奏で上映しました。

琵琶湖の風景から始まり、当時の世相の風景、膳所高校付近の写真、各人のアルバムからとった授業風景、運動会の仮想行列、修学旅行の写真など70枚をスライドショーで上映してタイムスリップ、大きな拍手を戴きました。

クライマックスは、青木建亮君が撮っていた修学旅行の8ミリを上映したときでした。47年前の若き日の姿が写っているところで画面を停止して、その人物数名に今(65歳)の姿で舞台上に登場していただき当時の

思い出を語っていただきました。隔世の感、その後次回の準備委員長に元膳所高校校長の浅田幸作君が選出され紹介がありました。

語り尽さない楽しい3時間半があつという間に過ぎて全員が肩を組んで「琵琶湖周航の歌」最後に「仰げば尊し」の合唱の中を恩師に退席頂きました。

二次会は5階和室に移動膝をつき合わせての語りありカラオケありで大いに盛り上がりました。65歳を迎えた我々ですが、5時間半におよぶ宴にも疲れる様子もなく、その元氣さに乾杯、乾杯。女性陣のまだまだ食べ(飲み)足りないとの言葉に脱帽。次回も元気で再会を約して閉会しました。

前年12月に第1回目的の準備委員会を開き、その毎月1回20数名出席して会合を重ねました。プログラム企画、名簿作成、出席勧誘、当日の進行など忙しいところ熱心に開催に向けて取り組んでいただき大盛会で終わり、準備委員の方々に深く感謝したい。(服部 克行)

# 膳中第四三回(4卒・昭和20年卒業)

平成16年11月7日・ホテル京阪京都(京都駅前) 桜の間で開催しました。

今回は長壽祝の同窓会であり、長野・松山・東京など遠路の参加があり、58名が集まりました。記念写真撮影した後、開会の辞で始まり、物故者への黙禱、世話人の挨拶の後、乾杯して懇親会に入りました。お互いに近況を語り合ううちに、話題は昭和18〜20年の戦時中の学徒動員など思い出ばなしとなり、往時をしのびながら楽しい一時を過ごしました。

次回の世話人代表の挨拶の後、いつもの如く校歌を熱唱し、来年の再会を約し散会しました。(明石 昌之)



## 石鹿会 (通信制閉講10周年)

私達膳所高校同窓・石鹿会は、通信制が閉講になつてから早10周年を迎えることになりました。今年3月27日旅亭紅葉に於いて閉講10周年の石鹿会総会・懇親会を現学校長の犬崎悦男先生初め、お招きした恩師の先生方と共に盛大に開催いたしました。

膳所高校通信制が閉講になりましたも本校は現として存在しており、石鹿会の皆様には、在学時苦しかったこと楽しかったこと等、いろいろな思い出が脳裏に刻まれていることと思います。このかけがえのない思い出を、当時は振り返りながら恩師と共に旧交を温めることができればと思います。このたび同窓会よりお祝い金5万円を頂きました。またことに有難う御座いました。これからも石鹿会を大切に末永く続いて行くことを願っています。  
(会長 松井 松之)

## 周年記念同窓会 予告

### 20周年記念同窓会

(膳所高33回・昭和60年卒業)

日時 平成18年1月2日(月)  
会場 琵琶湖ホテル

連絡先 矢野圭昭 TEL 077-523-15790  
E-mail: yano.0514@nari.ne.jp  
TEL 077-523-15790-2  
TEL 077-523-15790-3  
E-mail: h.sawa@kajin.co.jp

### 30周年記念同窓会

(膳所高23回・昭和50年卒業)

日時 平成17年4月30日(土) 15時  
会場 琵琶湖ホテル

参加費 一五、〇〇〇円(二次会費含む)  
(同窓会のみ10,000円、二次会のみ5,000円)

当日13時より母校新旧校舎見学会も開催(希望者のみ)  
実行委員長 白川正夫

### 35周年記念同窓会

(膳所高19回・昭和46年卒業)

日時 平成18年1月2日(月)  
午後2時30分～6時30分

会場 琵琶湖ホテル  
(詳細は10月下旬に案内)

幹事 三原辰吉郎・水谷 正  
TEL 077-5336-3550  
E-mail: uni-m@mx.bwa.ne.jp

### 40周年記念同窓会

(膳所高13回・昭和40年卒業)

日時 平成17年9月24日(土) 午後15時30分より  
会場 琵琶湖ホテル

幹事 永味幸雄・大隅富子・西田朋博

### 50周年記念同窓会

(大津東高3回・昭和30年卒業)

日時 平成17年10月22日(土)  
会場 大津プリンスホテル(淡海)

参加費 一〇、〇〇〇円  
(詳細は8月頃に案内)

幹事代表 高谷 勲・澤 正二

### 60周年記念同窓会

(膳中43回5年卒組・昭和20年卒業)

日時 平成17年7月10日(日)  
午後4時より

会場 琵琶湖ホテル  
同窓会に先立って当日午後2時30分(受付2時)「唯泉寺」(大津市京町2丁目4-12)にて物故者慰霊祭を開催。

世話係 岩崎栄三・本郷 保・山本利達

### 60周年記念同窓会

(膳中43回4年卒組・昭和20年卒業)

日時 平成17年10月22日(土)  
会場 アルマール(御馳浜)

幹事 膳所・石山・瀬田グループ

### 65周年記念同窓会

(膳中三八回・昭和15年卒業)

日時 平成17年6月16日(木)  
午前11時より

会場 あみ定(077-537-1780)

参加費 一〇、〇〇〇円  
(詳細は4月中旬に案内)

幹事 勝部憲二・久保貞雄(077-545-1103)

### 真珠会 (昭和24年卒業(旧大津))

日時 平成17年6月1日(水) 10時

会場 えき美術館 世界の民族衣装展  
ホテルグランヴィア京都  
幹事 太田公子・鈴木梅子・佐田葉子

### 大津高1回・昭和25年卒業同期生に!!

卒業55周年を迎え、小学校を卒業して還暦を過ぎました。45周年を同様今年膳所高同窓会総会と一緒にやりたいと思います。同封の総会の出欠はがきで申し込みいただき、大勢のご参加をお願いいたします。  
岡角、大西、横田

## 平成16年度同窓会会計中間報告・平成17年度同窓会総会提出議案

### 平成16年度 同窓会会計中間報告 (H16.4.1~H17.2.28)

#### 一般会計 (収入の部)

項目	金額	H16年度予算	備考
前年度繰越金	5,764,705	5,764,705	
平成16年度会費	3,479,000	2,800,000	会費会計より振替
前受会費	3,914,000	3,914,000	会費会計より振替
同窓会入会金	1,305,000	1,320,000	
雑収入	3,540,251	135,295	受取利息 マクドナルド代
合計	18,002,956	13,934,000	

#### (支出の部)

項目	金額	H16年度予算	備考
総会費	588,303	600,000	
会議費	176,165	150,000	理事会、役員会等
交際費	5,800	70,000	
通信費	635,845	650,000	総会出欠はがき、 会費部送附紙、他
光熱費	33,135	80,000	
旅費交通費	0	100,000	
支払手数料	137,109	130,000	
雑給与	1,072,000	1,400,000	
コンピューター賃借費	15,750	100,000	メンテナンス他
事務用品費	49,649	150,000	コピー用紙他
備品・消耗品費	4,748	180,000	
広報発行費	939,640	930,000	21号発行
広報発送費	2,362,608	2,330,000	会費部送附紙 会費部送附紙他
ホームページ運用費	157,500	180,000	ホームページ作成費
周年同窓会お祝い金	350,000	500,000	9学年、お祝い
学校助成金	1,000,000	1,000,000	京大特別講義助成他
慶弔費	70,328	80,000	
班活動奨励金	1,000,000	1,000,000	全国大会参加助成他
各部会費	700,000		
広報部会費	38,140		
組織部会費	3,400		
事業部会費	369,120		ゴルフ大会案内、 賞品代他
財務部会費	124,394		会費納入振替口座代
総務部会費	37,747		
予備費		3,604,000	
予備費	650,000		コピー機代
予備費	938,840		陸球ネット工事代
合計	10,760,221	13,934,000	

差引現在残高 7,242,735 (= 18,002,956 - 10,760,221)

#### 特別会計 (収入の部)

項目	金額	備考
前年度繰越金	523,844	
利息	4	
合計	523,844	

#### (支出の部) なし

差引現在残高 523,844

#### 会費会計 (収入の部)

項目	金額	備考
前受会費繰越金	12,783,000	
平成16年度会費	3,418,000	
平成16年度端数会費	61,000	
平成16年度前受会費	3,895,000	
合計	20,157,000	

#### (支出の部)

項目	金額	備考
平成16年度会費	3,418,000	一般会計へ振替
平成16年度端数会費	61,000	一般会計へ振替
前受会費平成16年度分	3,914,000	一般会計へ振替
合計	7,393,000	

差引現在残高 12,764,000 (= 20,157,000 - 7,393,000)

一般会計現在残高 会費会計現在残高

7,242,735 + 12,764,000 = 20,006,735

#### 名簿会計 (収入の部)

項目	金額	備考
前年度繰越金	11,668,772	
名簿売上金	37,200	
利息	677	
合計	11,706,649	

#### (支出の部) なし

差引現在残高 11706,649

### 平成17年度 事業計画案 (概要)

会員相互の親睦と教養の向上、母校に対する支援・協力の諸事業を行います。  
平成17年度末の新校舎改築竣工予定にともなう、母校の要請による特別事業に支援・協力の出来るように努力してまいります。

- 総務部会 年次総会・理事会の開催、役員会は必要に応じ開催します。母校との連絡協議を積極的に推進し、又、各部会への協力・支援を行います。
- 財務部会 特別事業に必要な資金の収納に積極的に協力致します。会費収入が減少しないよう納入の促進、財政面の充実に努めます。
- 事業部会 学校後援会活動・文化班・体育班への奨励に努めます。

### 平成17年度 予算 (案)

#### 一般会計 (収入の部)

項目	H17年度予算案	H16年度予算	備考
前年度繰越金	7,242,735	5,764,705	
当年度会費	3,000,000	2,800,000	会費会計より振替
前受会費	4,168,000	3,914,000	会費会計より振替
同窓会入会金	1,320,000	1,320,000	
雑収入	59,265	135,295	受取利息 マクドナルド代
合計	15,790,000	13,934,000	

#### (支出の部)

項目	H17年度予算案	H16年度予算	備考
総会費	600,000	600,000	
会議費	150,000	150,000	理事会、役員会
交際費	70,000	70,000	
通信費	650,000	650,000	総会出欠はがき、 会費部送附紙、他
光熱費	50,000	80,000	事務局
旅費交通費	100,000	100,000	
支払手数料	130,000	130,000	会費納入
雑給与	1,400,000	1,400,000	
コンピューター賃借費	100,000	100,000	メンテナンス他
事務用品費	100,000	150,000	
備品・消耗品費	130,000	180,000	収納棚他
広報発行費	950,000	930,000	1回分28,000部
広報発送費	2,230,000	2,330,000	1回分 会費部送附紙他 更新他
ホームページ運用費	180,000	180,000	
周年同窓会お祝い金	500,000	500,000	
学校助成金	1,000,000	1,000,000	京大特別講義助成他
慶弔費	100,000	80,000	
班活動奨励金	1,000,000	1,000,000	全国大会参加助成他
各部会費	700,000	700,000	広報部活動費含む
予備費	5,650,000	3,604,000	
合計	15,790,000	13,934,000	

総会の開催、各学年同窓会への協力、ゴルフ大会等交流会の開催を通じて同窓会活動の活性化に努めます。

○広報部会 年1回の発行となった同窓会報「JUN GIDO」を母校と同窓の交流を結ぶ絆として、また同窓の皆様方の情報交換の場として活用していただき、皆様に愛され、親しまれる紙面作りに努力致します。

○組織部会 地域の組織、職域の組織、各クラブOB会の充実、各学年の同窓会活動への協力を図ります。

ホームページアドレス <http://www.dosokai.ne.jp/zezekoukou>  
メールアドレス [zeze-h-dousoukai@poem.ocn.ne.jp](mailto:zeze-h-dousoukai@poem.ocn.ne.jp)

# 同窓会親睦ゴルフ大会

平成16年9月20日(敬老の日)、恒例になった同窓会ゴルフ大会も第9回を数え、素晴らしい秋晴れのもと、メイブルヒルズゴルフ倶楽部において開催された。本年度は百名を越す申し込みがありアウト、インそれぞれ13組にわかれ同時スタート。80歳から43歳まで参加者の幅も広く、年代を越え、和気あいあいのもと、熱戦が繰り広げられた。

また、本ゴルフ大会初のホールインワンも飛び出し大会を盛り上げてくれました。(昭和34年卒 菅野瑛子さん)

プレー終了後は、同クラブハウスにおいて、上木徹副会長の挨拶に続き、同窓会常任理事長 飯田勝一氏(昭和18年卒)による乾杯の発声で賑やかに懇親会が始まった。途中、成績発表(Wペリア方式)が行われ、本会ならではの賞も多く用意され、楽しい一日を過ごすことが出来ました。

上位入賞者は、次のとおり。

## 個人戦

優勝 堀井孝一郎氏(昭和40年卒)

二位 藪内 増治氏(昭和41年卒)

三位 平井 浩氏(昭和35年卒)

## 学年対抗

優勝 昭和35年卒

二位 昭和34年卒

三位 昭和40年卒

なお、本年度は第10回記念大会として9月19日(敬老の日)に開催の予定です。過去の参加者を中心に改めてご案内いたしますが、参加ご希望の方は、同窓会事務局まで一報下さい。多数の参加をお待ちしています。

(事務局会)

## 同窓会公式ホームページ

URL: <http://www.dosokai.ne.jp/zezekoukou>  
E-mail: [zeze-h-dosokai@poem.ocn.ne.jp](mailto:zeze-h-dosokai@poem.ocn.ne.jp)

○平成15年4月30日に開設して早や2年になろうとしています。

○記念同窓会(年次別)の案内、クラブ同窓会の案内などホームページ掲載ご要望の原稿や写真は同窓会事務局まで郵送又はご持参願います。

○原稿のみの場合はFAXでも結構です。  
FAX 077-524-11732

○経費的にオペレーターをおくことができませんで、同窓会事務局からの情報提供のみとさせていただきます。

# 『近江八景の幻影』出版記念会

ドイツの作家M・ダウテンダイ(一八六七—九一八)著の『近江八景の幻影』を、同期(昭和25年卒)の河瀬文太郎、高橋勉両氏が翻訳し、この度上梓されたので、これを記念して目片大津市長や宇野膳所高等学校同窓会長に旗振りをお願いし、去る1月23日、大津プリンスホテルで祝賀会を開催した。

当日は恩師の松山義雄元校長、大阪と京都にあるドイツ文化センターの所長マドゥシエ女史とルライ氏らが来賓として祝辞を述べ、大崎悦男現校長を初め膳所高校の同窓・同級の皆さんが中心となって会を盛り上げてくださった。

近江八景を題材にした小説は、古今東西を通じて『近江八景の幻影』しかない。この短編小説集は八つの佳景に託した幻想的な愛のファンタジーで、文学的に優れていることはもちろんだが、特筆すべきは、これが大津市とダウテンダイの故郷のヴェルツブルク市が姉妹都市になった機縁の作品であることだ。

しかし、残念ながら大津市民でこのことを知る人は少ない。当日寄せられたヴェルツブルク市長のメッセージにもあるように、今回の出版によって、文芸作品が取り持った両市の床しい交流が、一層深まり発展することが期待される。

ともあれ、かつて日の丸弁当を食べあつた仲間の二人が、卒業後五十数年を経た今、このような友情に支えられた訳業を完成させたことは、われわれ同期生としても喜びに堪えない次第である。

(出版記念会実行委員 昭和25年卒 岡角憲次)



## 理事会報告

平成17年3月26日(土)13時30分よりアヤハレ1号サイドホールにて理事会が開催され、総会上程の各議案が審議されいづれも承認可決されました。なお役員改選に伴う候補者の選定は、現役員会に一任し総会に諮ることとなりました。

広報内容が偏らぬように、恩師、同窓生に関する記事を募集しています。取り上げてほしい人、その資料や記事を広報部までお届けいただければ幸いです。

# 膳所高卒業生寄贈図書 「石鹿文庫」

著者名	書名・巻次(版次)
馬杉 七郎著	飄々・思い出の記
田中 良成著	超貧乏旅
田中 良成著	デイトルシバウツツカ
畑中 誠著	予想屋
田中 三郎著	語数でひく、難読季語 早わかり
岡部 邦男著	事例 船荷証券法
シンジキョウ出版	京都からの贈り物 明日のエネルギーと環境
シンジキョウ出版	京都からの贈り物 明日のエネルギーと環境 その続編
板 尚朗編著	ハイオマス・エネルギー・環境
栗本 藤雄編著	アレキサンダー大主と博士多数・学術の軌跡と進歩をめぐって
佐藤 達夫著	新しい食品表示の見方がよくわかる本
佐藤 達夫著	これが癌治療の最新予備知識のための生活改善法
江藤 正徳著	クスリとからだの本当の話
大久保 繁著	スポーツ医学
Zakuro Editor	De Wining HYDROLOGICAL PROCESSES
Zakuro Editor	世界の木質資源: 環境と持続可能な木材
村岡 由雄編	アメリカ林業と環境問題
大田伊久雄著	森林経済学とその政策への応用
EM・ロジスティクス	森林ヒト共生学: 環境経済学から持続可能な未来
大田伊久雄著	アメリカ森林管理の発展: 人と森林の共生は可能か?
田中 謙二著	田中謙二著作集 第一巻
田中 謙二著	田中謙二著作集 第二巻
田中 謙二著	田中謙二著作集 第三巻
常永 茂樹編	資料 権利の宣言 1789
滋賀文化を育てる会	近江歴史回廊 近江万葉の道
社説 新聞 文芸	歩く歴史シリーズ 命の心から、世界文化遺産をめぐって
柿木 重宜著	なぜ言葉は変わるのか? 日本語と英語学へのアプローチ
藤田 悦史著	自分からわかるライティングスキルを習得する1つのコース
近江陸奥彦著	まじかみまじかみライティングスキルを習得する1つのコース
中島 峰夫著	映画でおへんきょう: 高校生のための社会科授業3
馬場 利一著	水石白選集: 歳時を遊んで
高橋 春成編著	滋賀の歌たち: 人との共存を考える
高橋 春成編著	イノシシと人間: 共に生きる
田中 明彦著	力ヌーでめぐる湖
八幡 和郎著	図解雑学 性格がわかる! 県民性
八幡 和郎著	江戸300番 異国つんちん
八幡 和郎著	江戸300番 最後の藩主: 一つの藩をどう守った?
藤田 悦史著	自然と生業の関わり: 見えな世界この「シラフ」
M・ダウテンダイ	近江八景の幻影
安土 修三編	THE ART OF SHOZO AZUOH GALLERY 体位
Geira Club 編	L FASCINO INDISCRETO DEL DENARO
小笠原 徳著	歌集 宙の雫
杜嶋 的也著	森林の持続可能性: その歴史、挑戦、見直し
西田 久美著	朗読CD 源氏物語
庭崎 誠子著	コトトチャーンとフルフルのお話
宇野 勝著	晩にむかって... あすなろの話

## 卒業生文庫「石鹿文庫」へご寄贈を。

同窓生の著書を集めた「石鹿文庫」も皆様のご寄贈で充実してまいりましたが、更なる充実をめざしてご協力をお願いします。なお、ご寄贈いただく際には同窓会事務局までお知らせください。

### 滋賀県立膳所高等学校同窓会

## 年会費納入のお願い

平成17年度会費を同封の振替用紙にてご納入いただきますようお願いいたします。

**会費は年額2,000円となっておりますが、5年(10,000円)、まとめてご納入いただければ幸いです。**

〔納入機関〕 郵便局 01010-3-30378  
(振替用紙は共通です。) 銀行 滋賀銀行 本店 普 913381  
びわこ銀行 本店 普 335940

いずれも名義は、滋賀県立膳所高等学校同窓会  
会長 宇野 勝 です。

**ご理解とご協力を  
よろしく願いたします。**

平成14年度から、年会費2,000円、5年会費10,000円に改定されております。

一人でも多くの会員様に納入していただきますようお願い申し上げます。平成18年3月の竣工を目指して校舎改築が本格化していますので、ぜひとも同窓生の皆様の温かいご支援ご協力を切にお願い申し上げます。

※新卒の同窓生は、卒業後4年間は卒業時に納入する入会金3,000円のみで、卒業後5年目から会費納入をお願いしています。

※ご住所等に変更がある場合は振替用紙にその旨をご記入ください。

### 会費納入ありがとうございました

## 同窓会会費納入状況

皆様から納入していただきました平成16年度の同窓会会費は、

平成17年3月20日現在、

# 総額 7,531,000円

となっております。

前払いしていただいている方については、当年度分を振替充当して、上記金額に集計させていただきます。特に本年度は、今までに前受会費(5年又は10年会費)を納入していただき、その期限が終了し、平成16年度の会費未納の方々に再度納入をお願いいたしましたところ多数の方よりご協力賜わり予算どおり達成することができ喜んでおります。会員各位に厚く御礼申し上げます。

# 膳所高 NEWS



## 同窓会入会式開催

2月28日に、宇野勝同窓会会長、今市信夫総務部長列席のもと同窓会入会式が行われた。男子244名、女子190名、計434名の新会員が計34、647名の会員と共に志を一つにすることとなった。

宇野会長は歓迎と激励の中で「出来るだけ幅広い考えを持って人生を歩むよう。」と、自らの体験を踏まえて語られた。

新会員の同窓会理事は以下の通り。

同窓会の益々の発展の為、若い力を結集させて頂きたい。

- 1組 長井 孝平
  - 2組 山形 蓮
  - 3組 濱口 貴行
  - 4組 浮田倫太郎
  - 5組 武田 祐史
  - 6組 石原 和実
  - 7組 上田 知史
  - 8組 川崎まりな
  - 9組 森 宜裕
  - 10組 木幡麟太郎
  - 11組 高橋 春弥
- 常任理事は、山形、浮田、高橋の各氏に決まった。

## 第53回卒業式

それぞれの「旅立ちの日に」

平成17年3月1日、本校体育館において、第53回膳所高等学校卒業証書授与式が行われ、434名(男子244名、女子190名)が堂々と胸を張って卒業していった。

宇野同窓会会長、今市同窓会総務部会長、膳学校評議員、元校長松山・南池・武原・浅田・西岡各先生方、岡本父母教師の会長、林副会長、旧職員音野先生を来賓に迎え、在校生(2年生全員、1年生各クラス代表2名)、保護者、教職員出席のもと盛大に開催された。

大崎悦男校長は、式辞の中で、「『遵義力行』の校訓を人生の指針に、感謝の心を持ってこの混迷する世の中を生きていくことを願います。」と訴えられて、

はなむけの言葉とされ、来賓紹介の後、谷真斗君と瀧尻美美さんが、「卒業生の言葉」の中で、「多くの友人や先生、親に支えられて素晴らしい高校生活を送ることが出来た。これからは、膳所高校の卒業生であることを誇りに、精一杯生きていくことで恩返しをしていきたい。」と述べ、皆への感謝の言葉で締めくくった。

卒業生たちは、全員で「旅立ちの日に」を合唱し、希望を胸に、吹奏楽班による「栄光の架け橋」演奏の中、出席者の拍手を浴びながら会場を後にした。

また、これに先立って、卒業記念品目録贈呈式が行われ、代表の原田雅史君が綱引きの綱と図書検索ソフトを贈呈した。



## 班活動報告

### 全国大会の結果

#### ○体育部

- ▽新体操班
  - 全国高等学校総合体育大会・新体操兼全国高等学校新体操選手権大会
  - 団体 菊池沙也香・個人 南谷 朋佳
  - 小林 ゆい
  - 堤 美紗子
  - 南谷 朋佳
  - 玉井 郁圭
  - 西藤 里恵
  - クラブ 11150
  - リボン 9950
  - 得点 21100 48位
- ▽ポーツ班
  - 男子シングルスカル 準々決勝敗退
  - 女子ダブルスカル 準々決勝敗退
  - 内田 純子・藤井 陽子
  - 国民体育大会
    - 男子シングルスカル 準々決勝敗退
    - 谷 真斗
    - 男子ダブルスカル 準々決勝敗退
    - 松本 海・太田 慎弥

#### ○卓球

- ▽インターハイ
  - シングルス 吉永 守 1回戦敗退
  - 全国高等学校総合体育大会・空手道競技
    - 男子個人形 梶山 亮介 予選敗退
    - 女子個人形 山名 理世 予選敗退

#### ○空手

- ▽インターハイ
  - ヨット競技 FJ級男子 黒田 渉・中野 泰志 57位
  - 陸上
    - インターハイ
      - やり投げ 安居 伸悟 予選敗退
      - 200m 増田 美穂 11位

#### ○文化

- ▽カルタ
  - 全国競技かるた高校選手権大会(個人・団体ともに出場)
  - 全国高文祭競技かるた部門(団体出場)
  - 北脇由布子 山本 文音
  - 葛口 彩 高田 志帆
  - 木下 寛也 番匠 文恵
  - 全国競技かるた
    - C級 4位 山本 文音
    - D級 3位 北脇由布子

## サクラサク!

## 大学合格者

大学名	人数	大学名	人数	大学名	人数
京都大	51名	九州大	2名	龍谷大	50名
大阪大	35名	長崎大	2名	藍野大	2名
神戸大	29名	帯広畜産大・東北大	2名	酪農学園大・国際医	2名
京都工芸繊維大	14名	秋田大・東京大・東	2名	療福祉大・自治医大	2名
滋賀大	13名	京外大・東京工業大	2名	白鷗大・北里大・国	2名
大阪外大	12名	富山医薬大・福井大	2名	際基督教大・上智大	2名
滋賀医大	8名	浜松医大・奈良教育	2名	中央大・津田塾大	2名
金沢大	7名	大・山口大・徳島大	2名	法政大・武蔵工大	2名
京都教育大	7名	高知大・鹿児島大	2名	愛知学院大・大谷大	2名
筑波大	6名	各1名	2名	京都精華大・京都造	2名
名古屋大	6名	(公立大学)	2名	形芸大・ノートルダ	2名
広島大	6名	大阪市立大	2名	ム大・大阪産大・大	2名
横濱国立大	5名	滋賀県立大	2名	阪南大・大阪成蹊大	2名
信州大	5名	京都府立大	2名	甲南大・武庫川女子	2名
北海道大	4名	大阪府立大	2名	大・帝塚山大・岡山	2名
静岡大	3名	京都府立医大	2名	理大・倉敷芸術科学	2名
名古屋工大	3名	高崎経大・都留文科	2名	大・日赤広島看護大	2名
岩手大	2名	大・岐阜県立看護大	2名	徳島文理大・福岡大	2名
千葉大	2名	名古屋市立大・京都	2名	(その他)	2名
電気通信大	2名	市立芸大・兵庫県立	2名	防衛大学校	3名
東京学芸大	2名	大・神戸市外大・奈	2名	(短期大学)	3名
岐阜大	2名	良県立医大・広島市	2名	京都女短大	3名
三重大	2名	立大	2名	京都市立看護短大	2名
大阪教育大	2名	(私立大学)	2名	京都文教短大	2名
和歌山大	2名	立命館大	20名	京大文短	2名
鳥取大	2名	同志社大	93名	短芸短・聖母女学	2名
岡山大	2名	関西大	51名	院短・関西女短	2名
				芸術大短大	各1名

## 編集後記

広報部に入らせていただき3号目の「JUN GIDO」に間を空けていただきました。まだまだ先輩方の足跡が残りつつありますが、早く立ち立ちはじめよう頑張りたいと思っております。この同窓会紙が同窓生相互、母校との絆を深める一助になればと願っています。

来年度の竣工を目指して、新校舎の建設が進められています。現校舎に学んだ者として取り壊されることは高校時代の思い出が無くなるようで寂しい気になりますが、母校、後輩たちにとって学習環境が良くなるのだからと自分に言い聞かせています。

(東郷)

上野滋子(東2)・佐田葉子(旧大)・山田 鮎(膳11) 阪部 尊(膳12)・東郷重明(膳15)・藤原陽子(膳16) 岡澤則子(膳26)・島田光章(膳35)